

1. 岡山大学における教育

1－1 岡山大学の理念・目的・目標

1. 岡山大学の理念

“高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2. 岡山大学の目的

“人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるという、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3. 岡山大学の目標

(1) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

(2) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

(3) 社会貢献の基本的目標

社会が抱える課題を解決するため、総合大学の利を生かし、大学の知や技術の成果を社会に還元すると同時に、積極的に社会との双方向的な連携を目指します。

(4) 経営の基本的目標

研究、教育の目標を効果的に達成するため、大学に賦存する人材、財政、施設設備などの資源をトップマネジメントにより戦略的に利活用します。

(5) 自己点検評価の基本的目標

公的機関として社会への説明責任を果たすため、研究、教育、社会貢献、管理運営のすべての分野において不断の自己点検評価を実施し公表するとともに、その結果を的確に大学改革に反映します。

1. 岡山大学における教育

1－2 岡山大学の教育における方針

1. 養成する人材像

自ら行動を起こすために学び続ける実践者

教育の基本的目標に掲げられた、学生が「主体的に” 知の創成” に参画し得る能力」を専門力及び探究力、「学生同士や教職員との密接な対話や議論」をコミュニケーション力、「豊かな人間性」を教養力、「国内外の幅広い分野において中核的に活躍」を実践力としてそれぞれ捉え、第4期中期目標・中期計画の期間においては、本学の理念と目的に基づき、新たな価値創造と世界の革新に貢献できる「主体的に変容し続ける先駆者」を養成します。

学士課程では、以下5つの力を持つ人材を養成します。

自ら進んで、課題解決に挑む実践力

自ら問うて、課題を見出す探究力

語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力

基礎的かつ体系的な専門力

自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力（教養力）

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

本学は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

実践力 自ら進んで、課題解決に挑む実践力

身近な課題と向き合い、解決に向けて行動することができる。

探究力 自ら問うて、課題を見出す探究力

対象に疑問を持って、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

コミュニケーション力 語り聴くことを通して、差異から学ぶコミュニケーション力

出会いの中から違いを理解し自らを高めることができる。

専門力 基礎的かつ体系的な専門力

それぞれの専門領域の土台となる知識、技能を生かすことができる。

教養力 自然や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力

身の周りの事象に好奇心を持ち学び続けることができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、全学として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

1. 岡山大学における教育

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

共通教育

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

特に学士課程では、自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

専門教育

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

特に学士課程では、自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ基礎的な専門知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

言語教育

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

特に学士課程では、聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群を通じて言語を学ぶ初修外国語、留学生には日本語、それぞれを学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても言語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

- ① 自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
- ② 総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。
自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を全ての課程で展開します。
- ③ 学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。
学士課程から大学院課程で留学やインターンシップ、プラクティカム等、地域や世界とつながった実社会における学びを提供します。

学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

授業科目の成績評価については、その基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

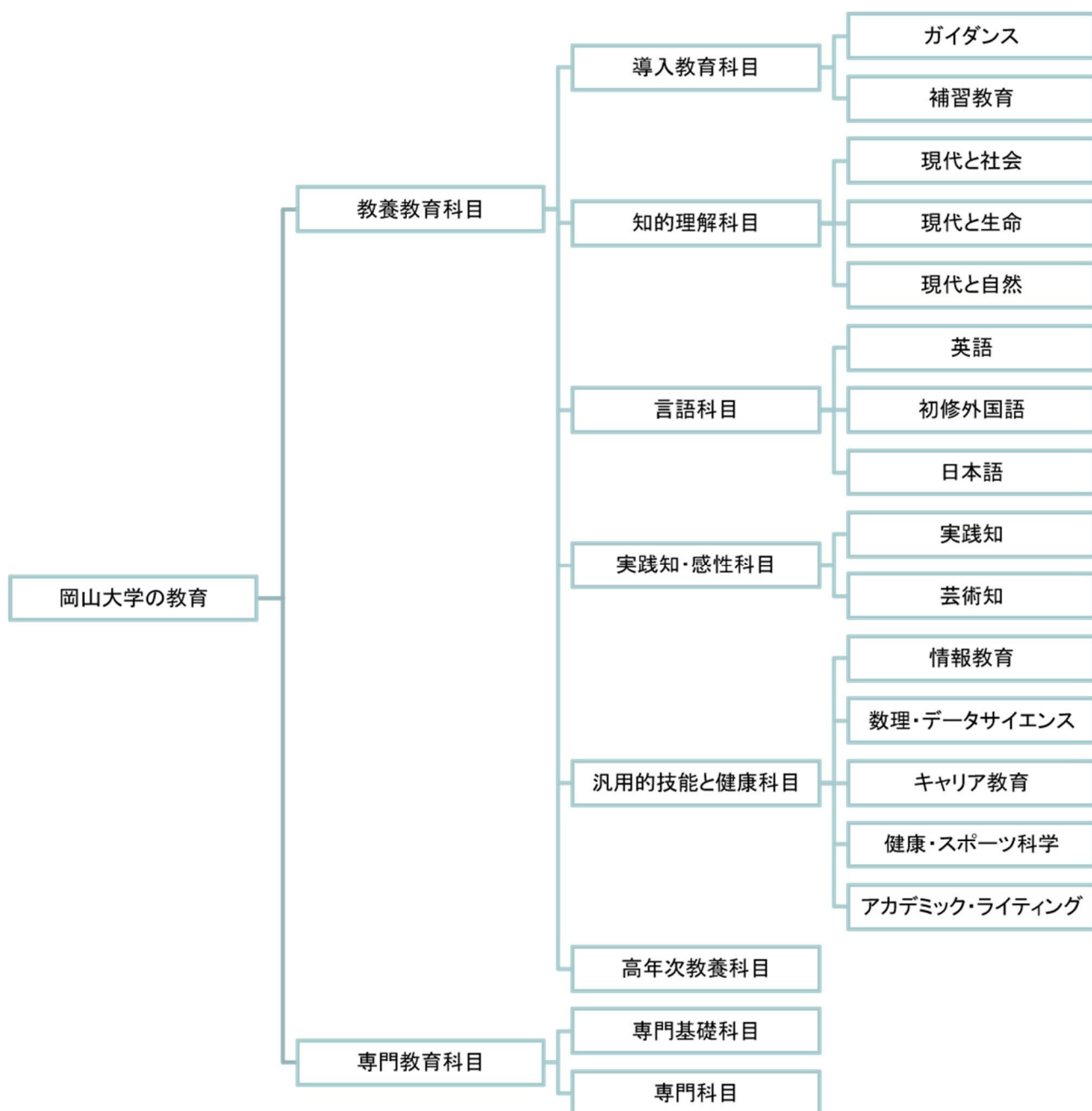
学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

1. 岡山大学における教育

1 - 3 岡山大学の教育課程

1. 二つの大きなプログラムー「教養教育」と「専門教育」ー

岡山大学の教育プログラムは、所属する学部の違いを超えた共通の授業内容から成る「教養教育」と、それぞれの学部に固有の授業内容から成る「専門教育」の二つで構成されています。



1. 岡山大学における教育

2. グローバル人材育成特別コース（Gコース）

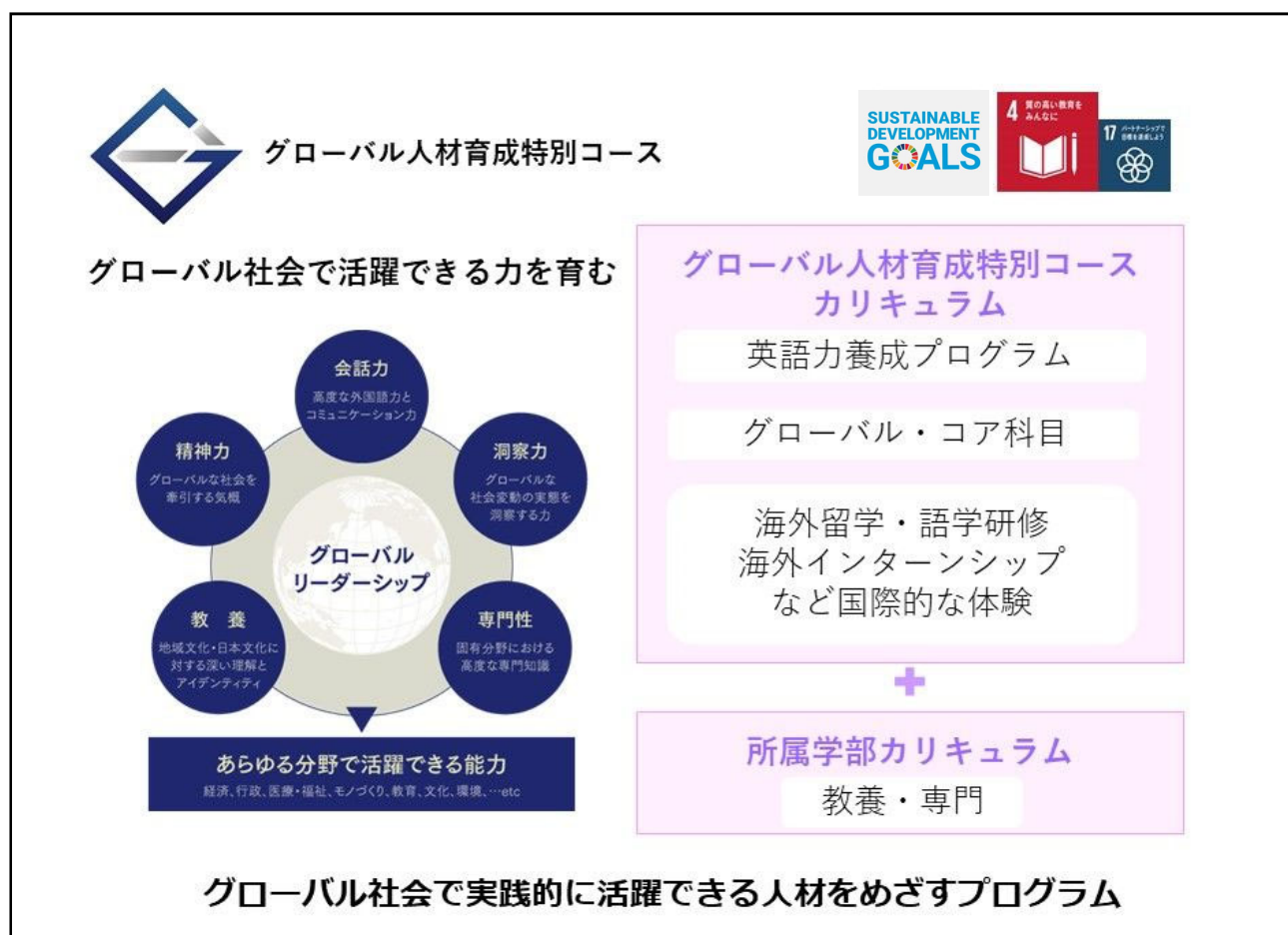
このコースでは、将来グローバル社会のリーダーとして実践的に活躍できる人材を育成します。コース生になると、それぞれの学部等に所属しながら国際色あふれるコースカリキュラムを履修します。1年次を中心に4技能（読む・聴く・書く・話す）を徹底して鍛える英語力養成プログラムで語学力を高め、SDGsに関連する授業など多彩な科目を備えたグローバル・コア科目で、世界のさまざまな課題を意識しながらグローバル社会の在り方への理解を深め、論理的思考力やコミュニケーション能力を培います。このコースで学んだ学生たちは語学研修や異文化体験、海外留学やインターンシップ、推奨する国際会議やSDGsに関連する活動などさまざまな国際的な体験を通して、豊かな国際感覚を磨き、主体的な行動力や相互理解を深める力を高め、優れたグローバルリーダーシップを育み、グローバルに活躍できる人材をめざします。

グローバル人材育成院では、コース生の学修計画に応じて、コースの履修や英語の学習・海外研修・留学への参加など、さまざまな場面でサポートを行っています。

⇒詳細はこちらをご覧ください。

グローバル人材育成特別コース HP <http://global.okayama-u.ac.jp>

入学～修了までの流れ



1. 岡山大学における教育

3. ナンバリングコード

ナンバリングコードとは各授業科目の分野、対象学生及び授業内容のレベル等を分類し、特定の記号や番号を付すことで教育課程の体系性を明示するコードのことです。

岡山大学のナンバリングコードは、「AREA t TGET x pqr W」の14桁で構成されており、「AREA＝分野」「t＝授業形態」「TGET＝対象学生」「x＝レベル」「pqr＝授業を識別するための連番」「W＝留意事項の有無」の6つのカテゴリーに区別されます。各カテゴリーの詳細については「巻末資料（P. 51～）」をご覧ください。

なお、ナンバリングコードは各授業科目のシラバスに掲載されています。詳細については、WEBシラバスで確認してください。

1－4 大学で学ぶために

1. 学生番号

学生番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要となりますので、学生証は常に携帯し、学生番号も間違いのないように記憶しておいてください。

学生番号の構成は次のとおりです。

【法学部法学科夜間主コース501番の学生の場合】

学部コード (2桁)	課程コード (1桁)	入学年度 (2桁)	一連番号 (3桁)
0 3	B	2 3	5 0 1

【学部コード】

学 部	学部コード
法学部	03
経済学部	04

2. 資料に目を通す

大学では、自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。そのための資料として、次のようなものが用意されています。

- ・『教養教育科目 履修の手引・授業時間表』
- ・各学部の『学生便覧』または『履修の手引』※名称は学部により異なることがあります。
- ・各学部の『授業時間割』※名称は学部により異なることがあります。

1. 岡山大学における教育

- ・『授業概要（シラバス）』

なお、シラバスは、本学のホームページから閲覧することができます。

<https://www.okayama-u.ac.jp/>

→「在学生・保護者の方」→「シラバス」

このWebシラバスは、必要に応じて教員が随時内容を更新します。

シラバスには、授業概要や授業担当教員名の他、ナンバリングコード、授業計画、授業時間外の学習（予習・復習）方法、授業形態、教科書等、成績評価などが記載してあります。シラバスは、皆さんが授業科目を履修する際、準備学習等を進めるための基本となるものです。また、授業の内容を事前に把握できるので、計画的・体系的な授業科目の選択が可能となります。

皆さんが、大学を卒業するためには、それぞれの所属する学部学科等によって決められている教養教育科目及び専門教育科目の卒業要件単位数を満たさなければなりません。

そのために、自分で履修計画を立てなければなりません。まず自分の時間割をつくる必要があります。大学では、これまでと違って自由に授業を選べるわけですから、ひとりひとり違う時間割があることになります。

受けてみたい授業が決まったら、履修の手続きが必要になりますが、必ず受けなければならない授業（必修科目）などが、学部学科等によって決まっているので、注意してください。

3. 時間割をつくる

時間割と授業概要（シラバス）を見て受講する予定の授業を選びます。

4. 授業の登録

受ける授業が決まったら、学務情報システムから履修科目を登録します。

履修登録の入力期間は、学部により異なりますので、掲示（所属学部の掲示板）に注意してください。

5. 掲示

休講・補講・試験に関する情報などは、掲示によってお知らせします。

夜間開講の教養教育科目については、法学部・経済学部の夜間主コース掲示板で確認するようにしてください。

昼間開講の教養教育科目を履修する場合は、一般教育棟A棟1階の掲示板で確認するようにしてください。

6. その他

教養教育科目について分からないことがあったら、一般教育棟A棟2階の学務企画課教育支援グループ（2番窓口）で相談してください。